

1月は、第一鳥取丸による海洋観測がないため、広域水温分布図はありません。

水産課からのお知らせ

漁業士会主催！JAいなばの職員さんへ親がに料理の講習会が開催されました！

12月17日(金)、遠藤会長(漁業士会)、大磯専務(鳥取県漁協)が講師となり、JA鳥取いなばの職員20名に、漁業士会により、親がにを用いた料理講習会が行われました。

最初に、水産課職員から県内で漁獲される魚や親がにの生態等について話しをし、遠藤会長からは刺網漁、定置網漁等についてお話いただきました。親がににはアカコ、クロコがあること、厳しい漁獲制限が設けられていること、近年、沿岸漁業においてサメによる漁網被害があること等、皆さん興味深く話を聞かれました。

料理講習会では大磯専務の指導のもと、かにの茹で方や、カニスプーンを使った外子、内子の上手な出し方、麵棒を使った綺麗な身の出し方について、皆さん熱心に取り組まれました。

かたい表情から始まった講習会でしたが、講習が進むにつれてにこやかになり、「家で母親がにをさばいてみようかな」、「次回は魚を扱ってみたい!」、「魚の美味しい食べ方や上手な料理の仕方について知りたい!」という声も聞かれ、皆さんの魚料理欲の高まりを感じました。

今回の講習は新規採用職員から定年間際の方まで幅広く参加いただき、年齢性別を問わず、県産水産物や、美味しい食べ方について興味を持つきっかけになったと思います。

(担当) 漁業振興担当 足立 電話 0857-26-7316



大磯専務の指導の下、親がにのさばき方を学ぶ参加者。



各自で親がにをさばく参加者ら。



遠藤会長と水産課職員も挑戦してみました。



参加者の方が綺麗にさばいた様子。

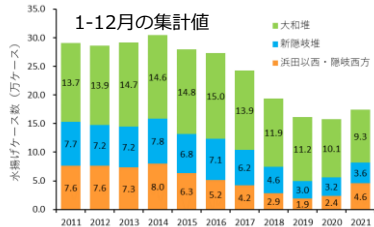
水産試験場

境漁港におけるベニズワイガニの水揚げ状況

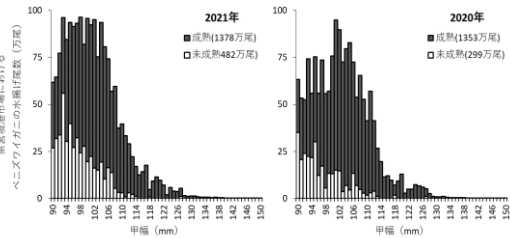
2021年の境漁港におけるベニズワイガニの水揚げは、前年から増加し、17.5万ケース(5,239トン)となり、前年からは1.7万ケース(518トン)増加しました。

2021年の増加要因として、長らく不調であった加入状況(12歳(12回脱皮)で漁獲対象サイズ)が改善したことが挙げられ、特に隠岐西方海域において、資源状況が大きく改善しました。

当場では、日本海にかご漁業協会とのかご網共同調査を行っており、その調査結果から、浜田以西・隠岐西方海域では、2021年漁期に前漁期から1.7倍、新隠岐堆では1.1倍になるという将来予測を行っており、現状、この予測に近い水揚げが行われています(注: 予測は漁期年である9月から翌年6月で実施)。



水揚げされた甲幅組成を前年と比較すると、甲幅10cm未満の小型サイズの水揚げが増え、加入が上向きになったことが、こちらでも分かります。



ただ、小型で脱皮して経過期間の短い『小B』銘柄が全体の93.6%を占めており、甲幅組成の図からも分かる通り、未成熟個体の漁獲も前年から多くなっています。

引き続き、脱出リング付きのかごの使用、IQ(個別漁獲割当)等による漁獲努力量の削減など資源管理を実践していただきますよう、よろしくお願い致します。



令和3年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

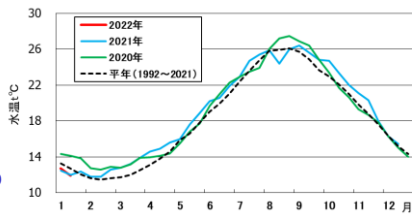
本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330



鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話: 0858-34-3321)

1月中旬 12.0℃
平年より 0.7℃低め



水産試験場

2021年境漁港の水揚げ状況

2021年の境漁港の水揚げは、水揚げ量93,829トン(全国6位)、水揚金額178億円(全国7位)となりました。直近15年で見ると、水揚げ量は2019年に次いで2番目に低い数値であり、水揚金額は、2010年、2012年、2009年に次いで4番目に低い数値となりました。

2019年の不漁の際には、マイワシの水揚げ減少が要因でしたが、昨年の水揚げ量の減少は、マアジの水揚げ減少が大きく影響しています。境漁港へのマアジの水揚げ量は2013,14年(同水準)から減少の一途をたどっています。漁獲対象となるマアジ対馬暖流系群の資源量は増加傾向である一方で、境漁港の水揚げは過去最低水準となっており、当场でも非常に気にかけているところ です。

なお、当场のマアジに関する調査については、2003年から当歳魚(その年生まれの魚)の加入状況を把握する調査を国立研究開発法人水産研究・教育機構(長崎拠点)及び鳥根県と共同で実施するとともに、境漁港で水揚げする大中型まき網漁船の漁獲物を精密測定し、体長組成(これが資源量推定の基礎となる年齢別漁獲尾数となる)等を把握しています。

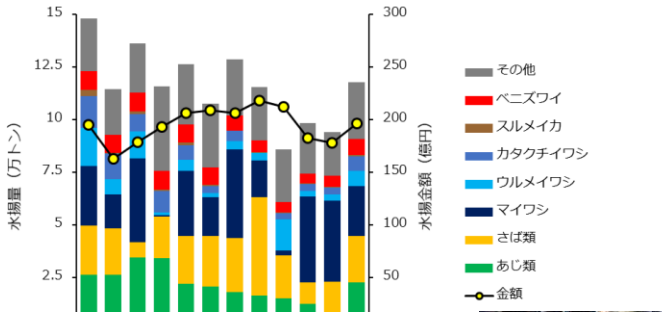


図 境漁港における主要魚種の水揚げ量および水揚げ金額
(一般社団法人 境港水産振興協会とりまとめた境港漁獲量実績表から集計)

栽培漁業センター

ナマコの資源増殖方法について調査を進めています

近年、本県のナマコ(アカナマコ・オオナマコ)の漁獲量は減少傾向にあります。当センターでは本県におけるナマコの生態調査、資源の増殖に効果的な天然採苗方法の確立に向け調査を進めています。

今年度については令和3年3月に境港地区の計3箇所にカキ殻等を用いた採苗器を設置し、9月に回収したところ、一文字防波堤内側に設置した採苗器で273個体の稚ナマコの採集に成功しました。

天然採苗方法の確立に向け期待が持てる結果となり、次年度も漁業者が実践できる天然採苗方法及び、資源増殖策の確立に向け調査を進めます。

【調査方法】

採苗器設置場所(境港中野漁港周辺)

※ 計3箇所に右図の採苗器を設置
一文字防波堤内側
黒瀬橋橋脚東側
水産試験場東側

採苗器設置時期
設置 令和3年3月
回収 令和3年9月
(設置期間 約6ヶ月)

設置した採苗器の構造図

※1箇所あたり4基を設置

水深1m
水深2m

採苗器設置時

【調査結果】

体長1~5cm程度の稚ナマコ(主にアカナマコ)がカキ殻の中に多く付着していました。

発見した稚ナマコ(主にアカナマコ)

なお、「なまこ」は特定水産動植物に指定され、許可を持った方以外の採捕は原則禁止されていますのでご注意ください。(詳しくは水産課HPをご参照ください)

潮に夢を **共和水産株式会社**
代表取締役 前橋 知之
〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530